関西自然保護機構会報 *21 (1) : 75－76, 1999*

鋸・鉋考：日本式引き切り法の開発

京都大学名誉教授　四手井　綱　英

INNOVATION IN A SAW AND A PLANE IN JAPANESE WOODWORK

Tsunahide SHIDEI *Emeritus Professor of Kyoto University*

はじめに

私がかなり以前に書いた松林の文章の引用許可を，流行作家だった司馬遼太郎さんから求められたことがあったことを，拙文（四手井，1999）で記した。司馬さんは，その後も私の日本の松林に関する記載が余程気に入ったらしく，亡くなる直前まで書き続けられた著書「この国のかたち」にも二回も引用されている。そしてその都度お手紙を戴き，許可を求められるのだが，許可への返信に乗じて，私は一番疑問に思っている室町時代の文化と文明のことを尋ねてみた。この質問は歴史的環境民俗学（四手井，1998）とも関連している。私の質問に対する返事の葉書が一枚残っている。先ずそれをここに載せよう。

司馬さんからのハガキ

芳翰なつかしく，室町時代のこと，当時に人工造林が発達したとのこと，またまた教わりました。素人風に考えますと，室町時代は，前時代からひきつづきおこなわれた私的な新田開発が実を結び，想像ながら鉄製農具が安くなり，深耕なども可能になって，農業生産高が史上最高に（乱世ながら）なりました。素人風に考えますに，農民一人が何人もの非農民（武士，連歌師，商人，私慶僧，物好き）を養えるようになり，つまり物を考える人々を養いうる社会になったせいかと思っています。また中国寧波港へは，近所に行くようにして，商人，禅僧が行き，異文化交渉がさかんで，そのせいで脳細胞が大変活発になったかと思ったりしております。先生のご専門の森林生態学の面では，周知のように，スギが建材として多用され，物をつくる好奇心が旺盛になったかと愚考したりしております。まことにまことに魅力的であります。政治よりも経済が文化を生むということでしょうか（19xx年12月14日）。

引き切り式の鋸と鉋

室町時代は不思議な時代で，足利の政治は全くだらしなくなり，終わり頃には乱世の国になったのに，司馬さんのハガキにる通り，食料生産は著しく伸びて，人口収容力が大きくなり，民間によるいろいろな発明があらわれた。森林や林業に関して目立つのに，鋸の縦引きのオーガと言われる巾の広いものが出来，今まで板を造るのに，割って造っていたのが，鋸引きでできるようになった。それできれいな巾のそろった板が生産される。他方今迄のヤリガンナでけずっていたのが，現在用われる手鉋が生まれ，材の表面ははるかにきれいにけずれるようになった。その上鋸も鉋も引き切りの方法が開発された。この手前へ引く時は切れたり，削れたりする鋸や鉋は日本の発明ではない

かと思う。鋸や鉋の元形は恐らく，中国大陸から渡って来ただろうが，中国では鋸も鉋も押し切り，押し削りで，日本のとは全く逆だ。アメリカ大陸も中国式らしい。引き切り，引き削りは，日本以外にはなかったと思うが，それがどうも室町時代に日本式に改良され，大いに効率をあげたようだ。今の機械鋸や鉋はみな，日本式だからものを切ったり，削ったりする方法は日本式の方が合理的らしい。

私達がアメリカへ渡って，太平洋岸の針葉樹林地帯で，森林の生産力調査をした時，手鋸や剪定鋏などの道具を日本から持っていった。アメリカの共同研究者も手鋸や剪定鋏を一通り持ってきて，一所に仕事をした。アメリカの青年達は，両方の鋸や鋏を使ってみて，日本の鋸の方が切り易いことを，すぐ見つけてしまった。押し切りより，引き切りの方がやり易いのだ。ただ慣れないうちに一本折ってしまったが，これは力の入れ方を反対にしたからで，その後は誰もアメリカ製の鋸は使わなくなり，日本の手鋸をサムライソウと名付けた。人も剪定鋏もカミカゼクリッパーの名を冠して重宝がられた。こんな理屈に合った鋸や鉋を日本人が室町時代に発明したのは驚きだ。鉄の生産が増加し，今までは農機具などに余り使われなかった鉄が，ふんだんに使われ出したこともあって，木を切り，加工する道具がものすごく発達した。これには他方で一般民家などの建築が盛んになったこともあげられよう。数寄屋造りなどという，日本独特の建築が出てきたのも室町時代だろう。

文化や文明というものは，政治よりも経済の発達に大いに関係があるのだろう。司馬さんの言うように，日本の国の当時の内戦なども，ひょっとすると，政治より，経済の方が関係していたのかもしれない。室町時代は，文化や文明の面からもっと調べる必要がありそうだ。

引用文献

四手井綱英. 1998. 歴史的環境民俗学のすすめ. 関西自然保護機構会報, 20(2) : 109－113.

————. 1999. オリジナリテイについて. 関西自然保護機構会報, 21(1) : 69－74.